

政治家の心得

－ 渡辺議員と私の比較について －

・渡辺先生へ 日々お忙しいところ時間を割いて頂き貴重な講義をありがとうございました。本レポートは講義の中で議論になった、(1) 政治家には何を求めるのか？ (2) 2人の政治家が同じ条件の場合、有権者として何を基準に政治家を選択するのか？ 以上2点の問いについて、渡辺先生と私の出した結論の比較を論じたいと思います。

政治家に関する問いの答え

	渡辺先生 (参議院議員)	私
政治家に何を求めるのか？	① 志 ② 人間性 ③ 演説力	⑤ リーダシップ (尊氏型) ⑥ 勤勉性 ⑦ 相手の立場になる
2人の政治家が同じ条件の場合、有権者として何を基準に政治家を選択するのか？	④ 他人の気持ちがかかるかどうか？	⑧ 将来性 (将来その人間が成長するか否か)

1. 共通点について

・まず、渡辺先生と最も一致する部分は、問いは異なるが④と⑦の「他人や相手の気持ちや立場が分かるかどうか」である。近年、日本の経済力は相対的に低下し、社会的弱者が増大している。その一方、渡辺先生のように「志」を貫徹し、地方議員の経験を経て国会議員になる政治家もいるがごくわずかであり、その大半の政治家は若年層からのエリートであり、社会的弱者の経験がない。この両者の考え方の乖離がシュンペーター流の民主主義を増幅させ、日本の政治不信を拡大している原因にもなっている。最近の安保闘争以来の大規模な反原発デモはこの乖離が顕著にあらわれている一例である。理論的に国会議員は憲法43条で「全国民を代表」とされ、選挙母体に拘束されず、自由委任が原則である。しかし、国会議員は国民から選ばれている以上、何らかの民意を反映させる(=乖離を埋める)努力が必要ではないかと思われる。

このように、国会議員を含めた政治家はその大半が社会的弱者を経験することがなく、国民から選ばれている以上、上記の④と⑦の資質が求められる。

次に、私は政治家への条件として⑤「リーダーシップ」をあげた。私が尊敬する人物の1人として足利尊氏が存在する。尊氏は建武政権による武家社会から公家社会への転換を潔しとせず、朝廷に対して反旗を翻した。この行為は強固な意志(=「志」)がなければできないことではない。さらに尊氏は、[A] 常に先陣を切って戦闘に参加し、[B] 財に執着心がなく、部下に対しては惜しみなく恩賞を与えた。尊氏は鎌倉時代から続いた朝廷内部の両統迭立の亀裂を限りなく大きくし、あまりにも寛大な恩賞は幕府の脅威となる多国衆(山

名、大内、細川など)を創りだすなど、義満の時代まで解決できないような大きな功罪を犯した。しかしそれ以上の功績として、尊氏の間人性([A][B])は新しい武家社会の時代の発展を望む多くの武士の心を掴んだに違いない。

南北朝の動乱のような現代社会の中で、国家が抱える問題、自らが抱える法案、また国民に対して、これほど信念・志・寛大な人間性を持っている政治家がどれほどいるのか？たとえ社会の流れに反しても、政治家は国民のために自らの信念を貫くリーダーシップを持つくらいの気概が必要なのではないのか？このようなリーダーシップに関する議論から、渡辺先生の①「志」・②「人間性」と私の⑤「リーダーシップ」は共通するところがある。

最後に、私は政治家に必要なものの1つとして⑥「勤勉性」をあげた。明治維新以降の日本は東洋で最も早く西洋化・近代化・立憲君主制へと移行し、帝国主義の時代に東洋一の独立国として君臨したこと、さらに戦後の荒廃した国土を高度経済成長に導いた原因は日本国民の勤勉性でしかない。その中で国家の盛衰を担う政治家は国民以上の勤勉性が求められることは当然である。政治家は辞書のようにあらゆることを知るくらいの勤勉性が必要であることを前尾繁三郎は説いた。しかし、特に現代の地方議員は博学の人が極めて少なく、下部の地方公共団体になればなるほど政治家としての資質(=勤勉性)に問題がある人も多い。この状態は本当に地域の住民の負託に適しているのかという点で、大きな社会的問題となっている。これが「地方議会の危機」と叫ばれる原因の1つである。

勤勉性は人間性でもあり、たとえ政治家の個人的な資質により能力的な限界があるとしても、政治家は常に知識を貪欲に吸収して政策を考える(=知恵を出す)ことをする努力と、人のために尽くす行動力を国民に示すことが求められる。

このように、人間性と勤勉性の議論を通じて、渡辺先生の②「人間性」と私の⑥「勤勉性」は共通する部分があると考えられる。

2. 相違点について

・政治家に求められるものの相違点として、渡辺先生は③「演説力」、私は⑧「将来性」をあげた。この両者の違いは、やはり議員経験の有無が影響していると思われる。正直、私はこの「演説力」の必要性に気付かなかった。渡辺先生は経験上、有権者に対して政策の内容を説得し、その支持を得ることが必要であるため「演説力」は極めて重要であると考え、それに対して、私は国家や人は現状維持に妥協せず成長すべきであり、常に将来のビジョンが必要であるという観点から「将来性」が重要であると考えた。

3. 結論

・渡辺先生も私も政治家に求める人物像は大きく異ならない。ただし、渡辺先生の方が約20年近くにわたる豊富な議員経験がある以上、一定の違いが生じるのは当然だと思う。今後、「政治家には何が必要か？」への問いは、私自身が政治塾を通じて、再度真摯に考える問題としていきたい。